

環境掲示板

第49回三鷹農業祭

日時 11月7日(土)9:00~17:00

11月8日(日)9:00~17:00

場所 三鷹市暫定管理地

(東京多摩青果三鷹市場跡地)

内容 ・農畜産物品評会
・花卉庭園樹品評会
・野菜宝船 など

問合せ J A東京むさし三鷹支店指導課

0422-46-2152

野鳥観察会

主催 野川公園緑の愛護ボランティアの会

日時 11月14日(土)9:00~12:00

12月12日(土)9:00~12:00

集合 野川公園自然観察センター前

申込 直接会場へ

参加費 無料

問合せ 0422-31-9033

Tシャツからエコルームシューズ作り

主催 三鷹市ごみ対策課

日時 11月18日(水)12:30~15:30

場所 リサイクル市民工房

対象 特になし

定員 8名 (多数の場合抽選)

申込 往復はがきで11月12日(木)

必着でごみ対策課へ(抽選)

問合せ ごみ対策課 内線2535

Tシャツからエコ布ぞうり作り

主催 三鷹市ごみ対策課

日時 11月19日(木)13:00~15:45

場所 リサイクル市民工房

対象 特になし

定員 8名 (多数の場合抽選)

申込 往復はがきで11月12日(木)

必着でごみ対策課へ(抽選)

問合せ ごみ対策課 内線2535

第53回井の頭かんさつ会

主催 井の頭かんさつ会

テーマ「木の葉」(仮)

日時 11月29日(日)10:00~12:00

事前に申込みが必要

参加費 300円

申込み 大原 kapock@parkcity.ne.jp

HP URL <http://www.kansatsukai.net>

発行: みたか環境活動推進会議

(愛称 みんなの環境)

連絡先: 三鷹市環境対策課

電話 0422-45-1151 内線 2523・2524

E-mail: kankyo@city.mitaka.tokyo.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。

みたか環境ひろば 第18号

2009年11月1日発行

井の頭恩賜公園池の外来魚問題

~多くの生き物が、いきいき暮らす池にするには~

井の頭池で魚を捕獲すると、約98%は外来魚である。井の頭かんさつ会では、2007年から外来魚の問題に熱心に取り組んでいる。外来魚の捕獲実験の結果、いろいろなことが分かってきた。10月7日、代表の田中利秋さん、事務局長の大原正子さんにお聞きしました。

「ブラックバスの繁殖場所は大体分かってきて、産卵の抑制ができるようになった。更に生まれた稚魚を、清水雅郎さんが開発したオダ網で捕獲したり、大きなものは釣り上げたりしている。来年は更に活動の規模を上げたい。」

ブルーギルについては、「産卵の抑制は成功していない。人工産卵床には生まれず、生んでいるところがよく分からない。それを探るのが今後の課題である。生まれた稚魚の捕獲は、オダ網で効果的に捕獲できる。昨年は約7万匹を捕獲、今年は年末までに10万匹の捕獲を目指している。減少しているのか、どうかは、来年には結果がでると思う。」

外来魚の在来魚(モツゴ等)への影響については、「在来魚の生きのびる余裕ができてきた。在来魚の数は増えたと思っている。2007年に活動をはじめ、翌年1月には御茶の水の水温の高いところ



雨の中、オダ網で外来魚捕獲中のメンバー

にブルーギルの稚魚が集まっていて、捕獲できた。そこで獲れたモツゴは成魚ばかりだった。今年の5、6月ごろにはモツゴの稚魚も相当数捕獲できた。でもモツゴは、生まれても、その後、減ってしまい、まだまだ数が足りない。」

毎日のように、オダ網で外来魚の捕獲実験を続けている大原さんは、「井の頭公園は地元であり、昔のきれいな井の頭公園を知っているの、生き物が暮らしやすい環境に戻ってほしいと思って活動を続けている」とおっしゃる。

代表の田中さんは、最後に「我々だけでは、大きな問題の解決はできない。みんなでやるような活動にしたい。そのように展開して行きたい」とも。活動の理解者が増えることを祈ります。(安達)

編集後記

9月の下旬に国立オリンピック記念青少年総合センターで「いり川・いり川づくりワークショップ」が行われた。全国の川で活動する団体から50の報告があり、野川の活動がグランプリに選ばれた。野川ルールなどの創造的な取組み、長年の湧水保全の活動、市民と行政との協働などが評価のポイントとなったようだ。大変うれしいことである。(安達)

独立行政法人海上技術安全研究所 「科学的に省エネ推進」

独立行政法人海上技術安全研究所が、目白、月島(旧船舶試験所)と三鷹市(旧運輸技術研究所)に分かれていた研究拠点を三鷹市に集約したのは昭和40年代初めです。

船や海との関係が深い研究所なのに、海沿いではなく“三鷹”にあるのが不思議に思われるかもしれません。それは研究に必要な「良い水槽」は、地盤がしっかりしたところでないとできないからです。

海事産業の拡大とともに大型の水槽が必要になった時、地質調査で地盤がしっかりしていたことが分かっていた三鷹に建設することになったのです。

自然に恵まれた地に研究所を置くだけに、幹部が指導するより前から研究者や職員が環境保全に気を配ってきました。

当所ではいま、エネルギー管理標準を作成し、省エネルギー推進委員会が各種省エネ対策を強力に推進しています。廊下やトイレの照明をセンサー式に変え、不要な照明を極力避けるなど、新しい技術(ただし製品は費用対効果があるもの)を取り入れながら省エネを推進しています。

現在検討しているのは、ガラス表面にコーティングやフィルムを貼付した場合の省エネルギー効果です。温度センサー



省エネ効果の温度計測

を使って、省エネ効果を測定し、費用を含めて最も効果が高い方法を選定していく考えです。写真は、「フィルム貼付」「何もしない」「コーティング」の時の温度計測です。

大きな電力を必要とする大型試験設備を動かす時には、種類が異なる実験の中の同一なものと一緒にやるなどの工夫を図っています。データベース化し、それを解析するのは慣れていますが、そうした手法を使い科学的に効率化を図っています。

最後に、所内の豊富な樹木の維持には、三鷹市のシルバー人材センターにお世話になっています。この紙面をお借りして感謝の意を伝えさせていただきます。

大沢田圃のちびっ子稲刈り

9月20日(日)朝9時半から、大沢の里・ほたる村の田圃ではちびっ子農業体験“稲刈り”が行われた。

このちびっ子“稲刈り”では、小学校以上の児童と保護者約100名が参加したが、その他にも第7中学校の生徒22名も参加して、9時半から稲刈りが行われた。稲を刈り、3株から5株を束ね、稲を干す。勿論落ち穂拾いもした。

刈ったあとの田圃では、バツヤやカエルがいて、子供達は大喜びであった。帰りに赤飯とお茶をもらって帰っていった。

10月11日(日)にも収穫祭があり、餅つきが行われた。天の恵みを感じ、収穫を感謝することは大切です。

市役所のまど :

私は、生まれてから約10年の間、小金井カントリーゴルフ場の北側に隣接する大規模な団地に住んでいました。今思えば、ここで暮らした経験は大変貴重なものでした。春になると建物ごとに用意された大きな花壇にみんなで花を植え、夏になると団地の南側の森で昆虫を捕り、大事に育てました。建物の間には大きな芝生空間が広がっていて、その上で私たちは花の冠や草笛を作って遊んだものです。きれいな環境を守るため、半年に1回くらい棟ごとに集まって空き缶拾いをやったのを今でも



稲刈りの様子

子供達にはいい思い出となることでしょう。(安達)

「わたしと団地」

鮮明に覚えています。

これらの経験は、よくよく考えてみると小学校などでやっている環境教育そのものです。私は、家に居ながらにして、自然とふれあい、生き物を大事にし、まちを綺麗にする心を学んだのです。環境問題を学校で議論するのも良いですが、日ごろの近所付き合いや暮らしの中から環境を大事にする心を養っていくという発想が、もっと必要なのではないかと思います。

まちづくり推進課 照井啓太